

【医学部医学科】『教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）』

医学部医学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するため、次のような方針に基づいて教育課程を構成します。

（教育課程編成方針）

1. 豊かな教養と倫理性：豊かな人間性を有し、医師としての職責への十分な自覚のもと、生命倫理や医の倫理を遵守し、行動する能力を修得するカリキュラムを構成する。
2. コミュニケーション能力：チーム医療の一員として強調して行動し、人々と良好な関係を構築する能力を修得するカリキュラムを構成する。
3. 適応能力：ICT 等も活用し、絶えず進歩する医学・医療に興味を抱いて学習し、学んだ成果を取り入れる能力を修得するカリキュラムを構成する。
4. 課題探求・問題解決能力：自ら国内の地域医療や国際的な健康問題を探求し、医学情報を積極的に収集して論理的に思考する、あるいは自ら医学研究をすることで問題を解決する能力を修得するカリキュラムを構成する。
5. 基礎医学能力：個体の仕組みと外界への反応を理解し、基礎的な病因や病態を理解する能力を修得するカリキュラムを構成する。
6. 社会医学能力：地域医療を含めた社会と医学・医療の関連性を理解する能力を修得するカリキュラムを構成する。
7. 基本的臨床能力：患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、疾患の病因・病態・診断・治療を総合的に理解する基本的な臨床能力を修得するカリキュラムを構成する。
8. 実践的臨床能力：基本的な臨床能力を用いて、具体的な臨床的問題を解決する能力を修得するカリキュラムを構成する。

（学修方法・学修課程）

1年次には、幅広い教養と医学を学ぶ前段階の科学の知識を身につけることを目的として、教養基礎教育科目を履修する。また、人体の構造・機能の基礎を身につけるため基礎医学の知識や技能を修得するとともに、医療・社会・行動科学を履修する。

2年次には、人体の構造・機能を詳細に学び、疾病の原因・病態・治療に関連する基礎医学の知識や技能を修得するとともに、医療・社会・行動科学を履修する。また、興味のある基礎医学を選択的に学ぶ事を目的として基礎医学アドバンストコースを履修する。

3年次から4年次前半には、臓器別・器官別に全ての診療科の臨床医学を学ぶとともに、社会医学の知識や技能を修得する。また、3年次前半には基礎医学講座・社会医学講座等に配属されて研究・実務活動に触れる研究配属、4年次前半には興味のある臨床医学を選択的に学ぶことを目的として臨床医学アドバンストコースを履修する。

4年次後半から5年次前半には、医学部附属病院等の医療現場で全ての診療科の実践的な診療能力を修得する診療参加型臨床実習を履修する。この間、症例ベースの演習、医師国家試験に向けた対策、医療・社会・行動科学の演習をする目的で、医学医療総合講義を履修する。

5年次後半から6年次前半には、医学部附属病院および県内地域医療機関等（国際交流医療機関を含む）の医療現場で、学生の希望・選択を考慮した診療参加型臨床実習を履修する。

6年次後半には、従来から学んできた臨床医学の知識・技能を再確認し、「学士（医学）」の学位を授与するに相応しい学生であるか否かの評価を受けるためにOSCE（客観的臨床能力試験）を含む卒業試験を受けるとともに、医師国家試験に備えた準備をする。

医学科では、学生が卒業時に達成すべき能力として、以下の6つのコンピテンスを定めている。

1. 豊かな教養・プロフェッショナリズム
2. コミュニケーション能力
3. 医学各分野及び関連領域の知識と応用力
4. 実践的臨床能力
5. リサーチマインド・問題解決能力
6. 自己研鑽・生涯学習力・教育力

各コンピテンスには、それぞれ具体的な到達目標がコンピテンシーとして設定され、合計32項目のコンピテンシーから成る。（別表1）。個々のコンピテンシーは6年間のうちの特定の時期において達成されるのではなく、各学年で履修する科目ごとに定められたレベルをクリアしながら徐々に能力が向上し、卒業時には全ての学生が「卒後臨床研修開始時点に期待されるレベル」に到達できるよう、カリキュラムが構築されている。

別表1 秋田大学医学部医学科のコンピテンスとコンピテンシー

コンピテンス	コンピテンシー
1. 豊かな教養・プロフェッショナリズム	卒業生は豊かな教養とプロフェッショナリズム（信頼、誠実、思いやり、省察、倫理）を有し、常に以下を自覚した行動ができる。 1) 医の倫理と医師の職責 2) 患者中心の医療
2. コミュニケーション能力	卒業生は以下に配慮しつつ、チーム医療の一員として協調し、人々と良好な関係を構築できる。 1) 傾聴、共感、思いやりの気持ちをもった誠実な対応 2) 総合的な判断に結びつく多様な背景や価値観の理解 3) 言語表現・非言語表現による相互の信頼関係の構築 4) 正確な説明・プレゼンテーション 5) 診療チームの一員としての信頼・協調 6) 多職種連携とリーダーシップ 7) 困難な状況下における患者・家族・医療者とのコミュニケーション 8) 国際的なコミュニケーション力
3. 医学各分野及び関連領域の知識とその応用力	卒業生は以下の基礎・社会・臨床医学及び医療行動科学に関する知識を修得し、ICTを適切に活用して実践に活用できる。 1) 各臓器の正常な構造と機能 2) 病態生理・構造と機能の異常 3) 診断・治療（EBM・統計） 4) 疫学・予防 5) 医療安全・医療倫理 6) 医療行動科学 7) 医療行政・経済（保健・医療・福祉制度、医療のグローバル化）
4. 実践的臨床能力	卒業生は以下の基本的な臨床能力を修得して、具体的な臨床的問題を解決できる。 1) 適切な医療面接及び臨床推論 2) 身体診察・検査計画 3) 治療方針の策定 4) EBMを適切に活用した総合的な判断に基づくInformed Consent、Shared Decision Making 5) 診療記録の記載とプレゼンテーション 6) 基本的な診療手技の実践 7) チーム医療 8) 地域医療・地域包括ケアの理解
5. リサーチマインド・問題解決能力	卒業生は以下を通して、日々の診療や国内・外の医学的課題を探求し医学情報を適切に収集して論理的に思考する、あるいは自ら医学研究をすることで問題を解決することができる。 1) 医学的課題の発見と探求 2) 科学的理論と方法論の理解と実践 3) 医学情報の解析と活用 4) 新知見の発信 5) 国際的視野
6. 自己研鑽・生涯学習力・教育力	卒業生は以下を通して、常に省察することで生じる課題解決のために、絶えず進歩する医学・医療を学習し、個々や各チームの質を継続的に向上することができる。 1) 自己研鑽・生涯学習の継続 2) 医学・医療教育の連鎖による継続的なチーム医療の質向上